KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立パワーブロワー
PB2100

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2002/09

はじめに

ご挨拶

・共立パワーブロワーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この機械は、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付ブロワーです。
・この機械は色々なゴミや落ち葉を吹き払うために使用する機械であり、目的以外には使用しないでください。
・機械を改造しないでください。
・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用しているイラストは現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い求めの販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　噴管の取付 6
正しい作業のために 7
　作業者の体調 7
　保護具 8
操作方法 9
　燃料の取扱い 9
　エンジンの始動と停止 １０
　ブロワーの運転 １２
点検・整備 １３
　整備の目安 １３
　点検要領 １３
　キャブレタの調整 １６
故障診断と対策 １７
保管 １８
　長期保管（６０日間以上） １８
仕様 １９

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。



丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。
  ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。

警告表示ラベル

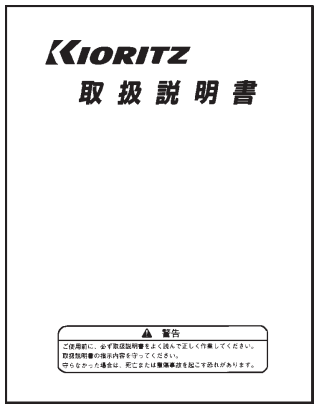
⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

⚠ 注　意

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

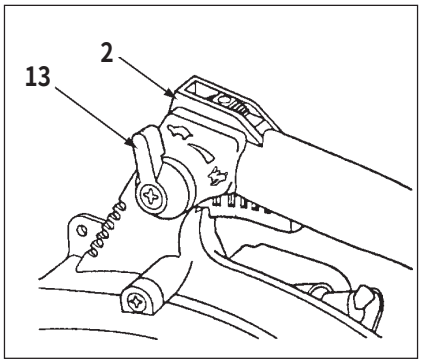
各 部 の 名 称

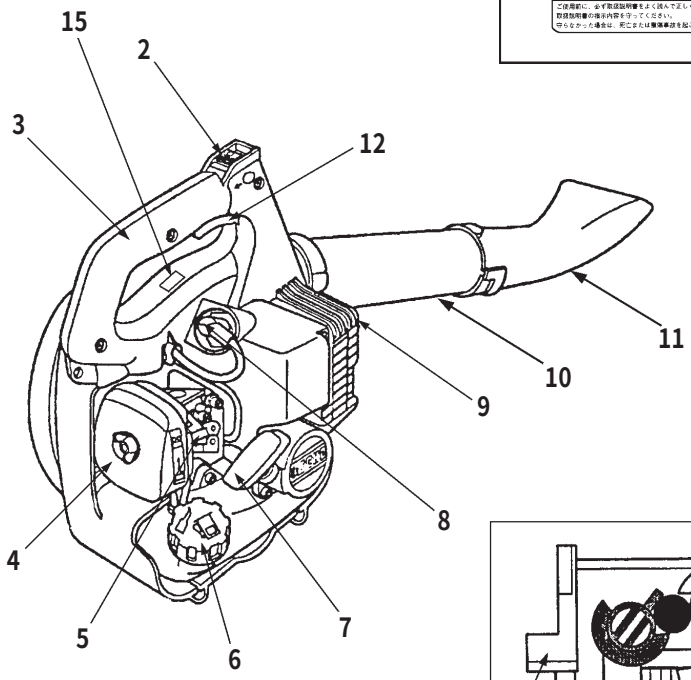


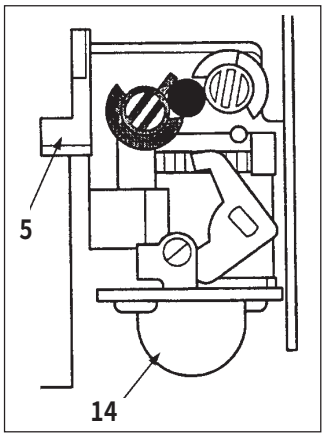
1 →

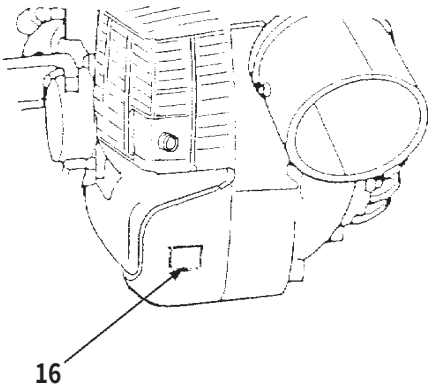
⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。









⚠ 注　意

●作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

各部の名称とその機能

１．　取扱説明書　　――機械をお求めになったとき必ず付いています。機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

２．　ストップスイッチ　　――エンジンを停止するときのスイッチです。

３．　ハンドル　　――作業時、本体を操作するため握るハンドルです。

４．　エアクリーナ　　――エンジンに供給される空気をきれいにします。

５．　チョークレバー　　――始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。

６．　燃料タンクキャップ　　――燃料タンクを密閉するふたです。

７．　スタータグリップ　　――エンジンを始動するとき使用します。

８．　スパークプラグ　　――エンジンの頭部に組付けられ、燃料に点火するためのものです。

９．　マフラカバー　　――消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。

１０．直噴管　　――噴管を接続し長くします。

１１．扇形噴管　　――色々なゴミや落ち葉を吹き払う噴管です。

１２．スロットルトリガ　　――エンジン回転を調節するためのレバーです。

１３．スロットル固定レバー　　――適切なエンジンの回転数に固定できます。

１４．プライマリポンプ　　――始動前にこのポンプを押して、燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込みます。

１５．注意ラベル　　――ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

１６．注意ラベル　　――作業中は必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。

組　　立

・機械を改造しないでください。
・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

⚠ 警　告

エンジン回転中に、組立、修理はしないでください。

重　要

噴管を確実に組付けずに、本機を運転しないでください。

図１

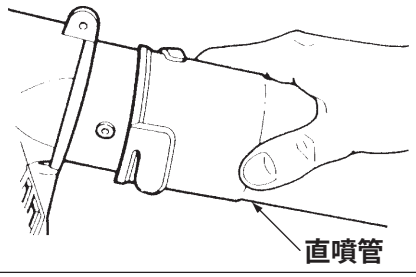
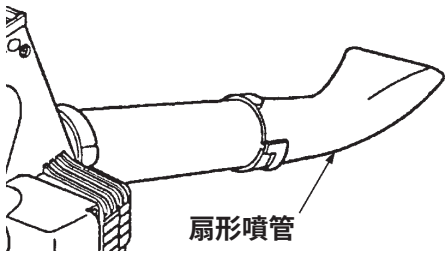


図２



噴管の取付

１．直噴管の取付溝を本機の突起に合わせ、押し込んでください。

２．直噴管を時計方向に回し、組付けてください。

３．直噴管に扇形噴管を組付けてください。

正しい作業のために

⚠ 注　意

・機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
　子供には使わせないでください。
・夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないようにしてください。

⚠ 注　意

労働省の通達により、一日の使用時間は２時間以内、連続作業時間はおおむね３０分以内にしてください。連続作業後には５分以上の休止時間をとってください。

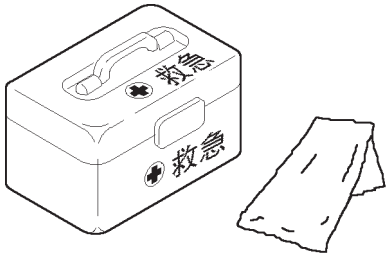
図１



図２



図３



救急箱　　タオル、てぬぐい

作業者の体調

・疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、機械の使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。
・酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
・身体を冷やさないようにしてください。
　特に手首や手指は保温に心掛けてください。

振動と冷え

機械を操作する人の体質によっては、指にレイノー症候群と呼ばれる症状が現われることがあります。これは振動と冷えにさらされることにより起こるとされており、指にチクチクとした痛みや、火傷のようなヒリヒリした痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなります。
症状の現われる限度が未解明であるため、特に末梢部は温かく保ってください。

反復作業による傷害

指や手、腕、肩の筋肉やすじを使いすぎると、その箇所にズキズキする痛みや腫れ、マヒ、衰弱、激痛が起こるとされています。手で、一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害の危険性が高くなります。定期的に休息をとってください。

ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
　出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

図１

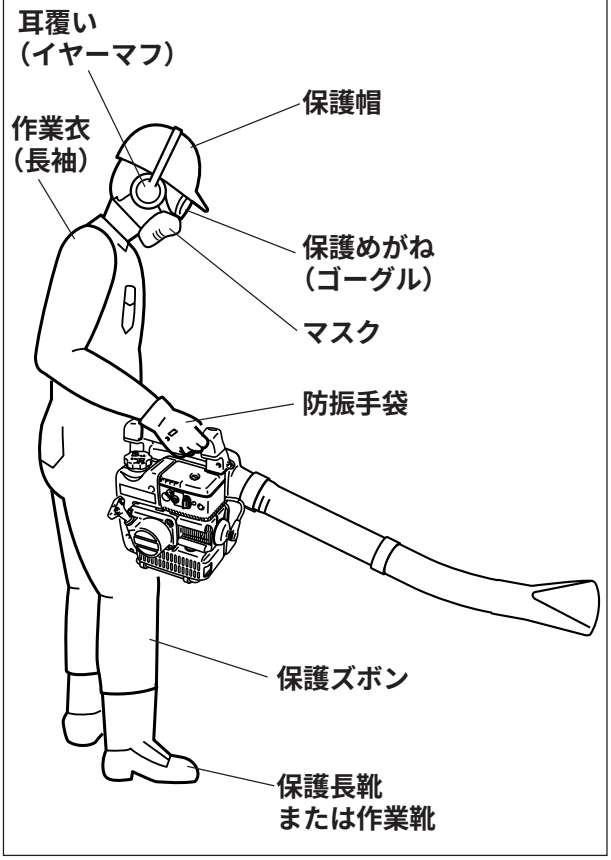
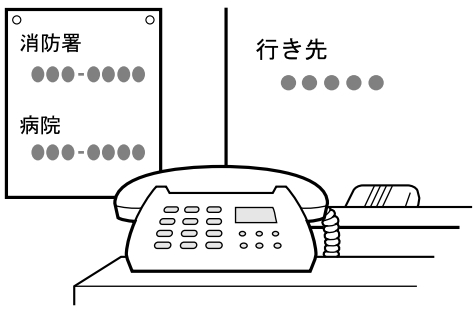


図２



図３



保護具

身体を保護する衣服

身体に合った作業衣（長袖）を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、作業衣のすそはズボンに入れること。袖じまりを良くしてください。フリルや飾りヒモは機械や雑草に絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないこと。髪の毛は肩より上でまとめること。（図１、図２）

頭部の保護

作業帽を使用し頭部を保護してください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。
耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

防振手袋を着用してください。柔らかい革のものは、握りをより確実なものにできます。

脚全体の保護

底に滑り止めの付いたゴム長靴などを履いてください。つま先のあいた靴、サンダルやはだしで作業しないでください。

身体の保護のためのその他の事項

- 防塵マスクを着用し、粉塵を吸わないようにしてください。
- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。
  気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

操　作　方　法

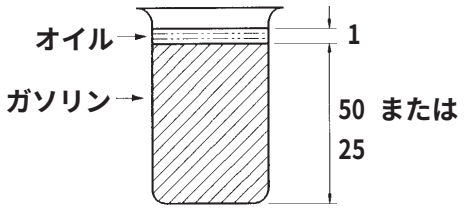
⚠ 警　告

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
  燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械を身体から離し、まず身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際はポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図1

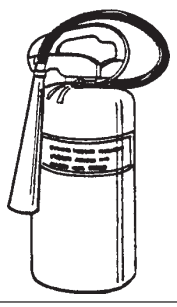


ガソリン	2サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	50：1	25：1
4	80	160
8	160	320
20	400	800

図2



図3



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重　要

- 混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
  燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、ブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
- ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。
  共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

● 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクル用エンジンオイルを混合した燃料を使用してください。
  正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。

● 燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。

・共立純正２サイクル専用オイル ;[５０：１]
  ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ

・２サイクルエンジンオイル　　;[２５：１]
  ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ

● ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。

● 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
  草木などに類焼しないよう注意してください。
  シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

図１

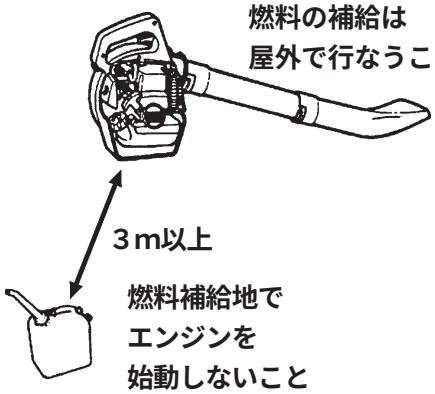
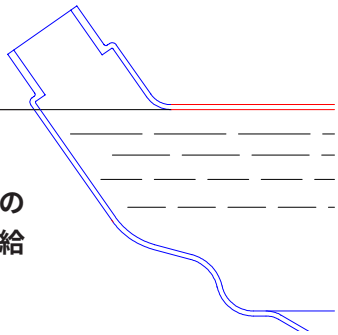


図２



⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図３

屋内での運転禁止

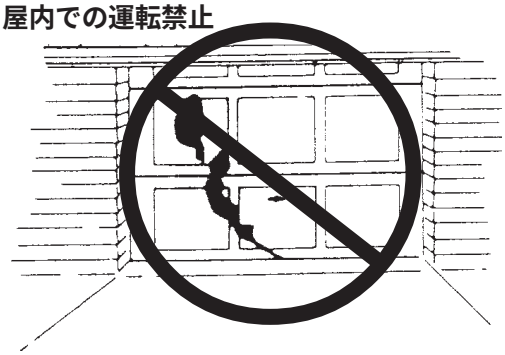
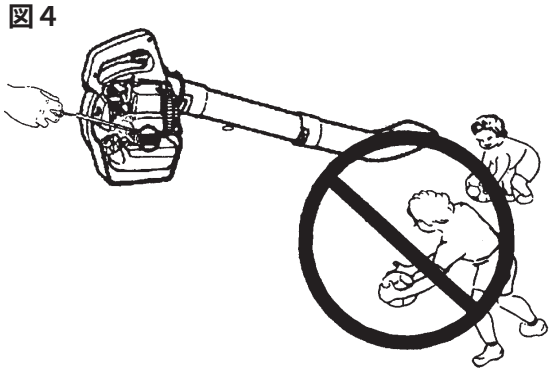


図４



- 燃料タンク内には、外気との間に圧力差が生じています。
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。
  屋内では燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 燃料は規定レベル（燃料タンク肩口）を超えて補給しないでください。（図２参照）
- 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
- エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。

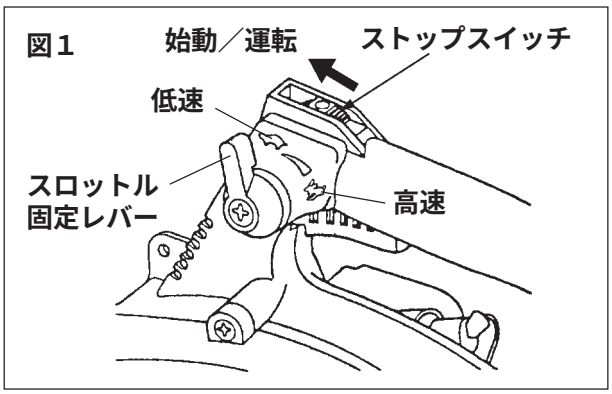
エンジンの始動と停止

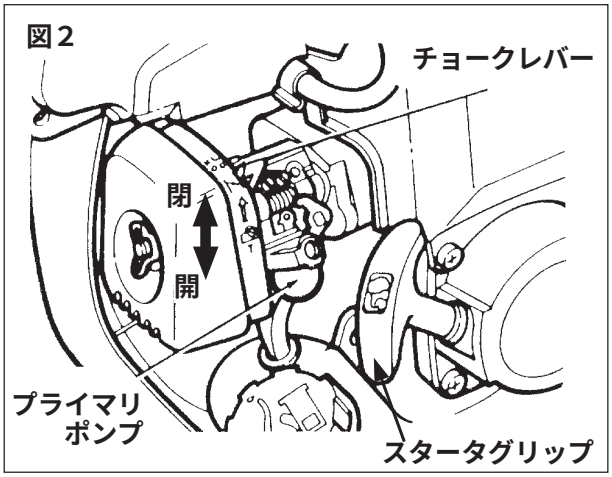
⚠ 注　意

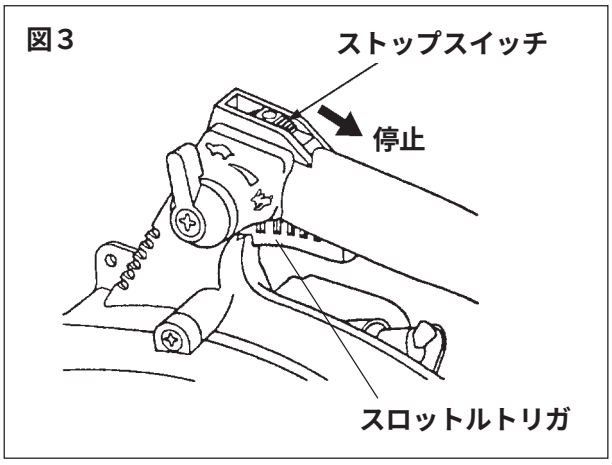
- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
- 機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- 機械は地面にしっかりと押え、始動してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

重　要

- 噴管なしで運転されますと正規の回転が上がらないだけでなく、エンジン不調の原因となります。
- 燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- スタータグリップを引くときは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引き出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。









冷えたエンジンの始動

１．ストップスイッチを「始動」の位置にしてください。（図１参照）
２．スロットル固定レバーを「低速」の位置にします。
３．プライマリポンプを、くり返し押してください。
４．チョークレバーを「閉」の位置にしてください。（図２参照）
５．ハンドルをしっかり握り、エンジンの最初の爆発音が聞こえるまで、スタータグリップを数回引いてください。
６．爆発音がしたらチョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。
すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを徐々に「開」に戻してください。
７．始動したら低速のままでしばらく暖機運転をしてください。

暖まっているエンジンの始動

１．チョークレバーは「開」の位置にしてください。
２．スロットル固定レバーを「低速」の位置にします。
３．ストップスイッチを「始動」の位置にします。
４．燃料タンクがカラでなければ、エンジンが始動するまでスタータグリップを引いてください。
５．燃料タンクがカラの場合、燃料を補給した後、プライマリポンプをくり返し押してください。
６．スタータグリップを引いて始動させてください。
２～３回スタータグリップを引いてもエンジンが始動しないときは、冷えたエンジンの始動の要領で始動してください。

エンジンの停止

１．スロットル固定レバーを低速の位置に戻し、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。
２．ストップスイッチを停止（ＳＴＯＰ）の位置にします。（図３参照）
３．緊急の場合は、直ちにストップスイッチを停止の位置にしてエンジンを停止してください。
４．エンジンが停止しないときは、チョークレバーを閉じてください。（図２参照）
エンジンは失速し停止します。
機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図４参照）

⚠ 警　告

いつもゴーグルを着用し、マスクを使用してください。(この取扱説明書の８ページの保護具の項目を注意してお読みください。)

ブロワーの運転

重　要

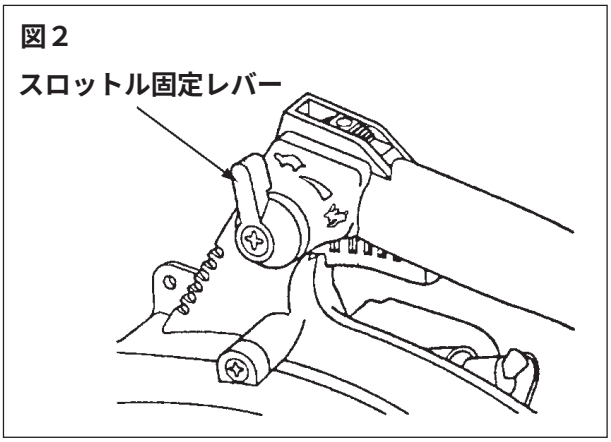
- **その仕事にあった回転数で使用してください。エンジン回転数が高ければ高い程、騒音は高くなることにご注意ください。**
- **本機は、２，５００～７，３００r/minで運転されます。従って、小さな枯れ葉には中速に、大きな枯れ葉には高速に、簡単に回転速度を調整できます。**
- **エンジンの過回転による損傷を防ぐため、噴管はふさがないでください。**

図１



１．２～３分間低速で、エンジンを暖めてください。
２．パイプ末端を下向きにしてください。

図２



３．スロットル固定レバーで、エンジン回転数をセットしてください。

点　検・整　備

⚠ 注　意

点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。（１１ページ図４参照）

整備の目安

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	点検 / 交換	14	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	14		●	
燃料パイプ	点検	13		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	15		●	
キャブレタ	点検	16			●
シリンダフィン（冷却系統）	点検 / 清掃	14	●		
マフラ	点検、増し締め / 清掃	15	●		
燃料系統	点検 / 修理	13	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	ー	●		

重　要

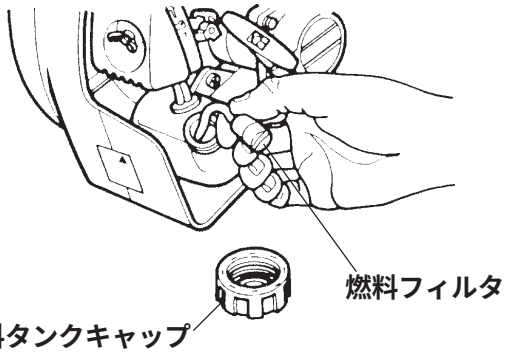
- 燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
- 詰まった燃料フィルタは、始動困難、エンジン出力低下の原因となります。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
- 燃料タンクは、清潔にしてください。
  ゴミや塵をタンクに入れないでください。
- 使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
- エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
- エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますとエンジン焼き付きの原因となります。
- スパークプラグを締め過ぎないでください。
- シリンダ排気口とマフラのカーボンの堆積は、エンジン出力低下の原因となります。マフラの出口を点検してください。
- ご不明の点についてはお買い求めの販売店にご相談ください。

点検要領

燃料パイプ、燃料グロメット、
燃料タンクガスケット

- ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、キャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
- 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
- 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

図１

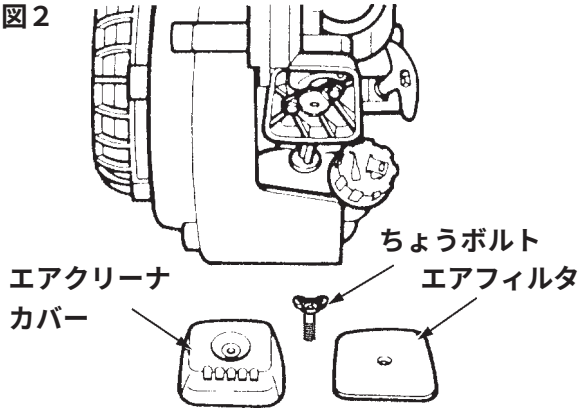


燃料フィルタの交換

ご使用前に点検してください。（図１参照）

1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などで燃料フィルタを引っ掛け､燃料タンクの補給口から取出してください。
3. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
4. 燃料パイプから抜き取って新しい燃料フィルタと交換します。
5. 燃料タンクの補給口から燃料フィルタを入れて、燃料タンクキャップを締めてください。

図２

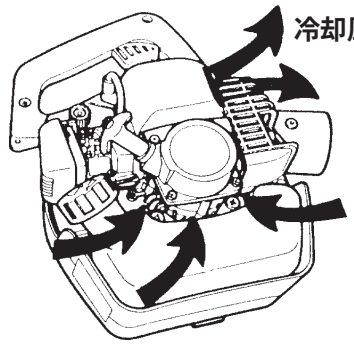


エアフィルタの清掃

ご使用前に点検してください。（図２参照）

1. チョークを閉じてから、ちょうボルト、エアクリーナカバー、エアフィルタを取外します。
2. エアフィルタのゴミを落とし、エアフィルタをガソリンで洗ってください。
3. エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

図３

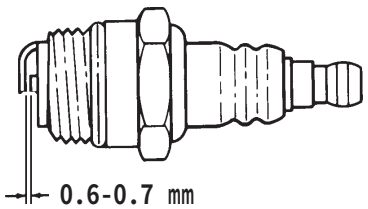


シリンダフィンと冷却系統の保守

ご使用前に点検してください。

- シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。
- 吸入口の格子から、堆積したゴミを取除いてください。
- エンジンの底部と燃料タンクの間にある冷却風の入口の周りに付いた、ゴミなどを取除いてください。（図３参照）

図１



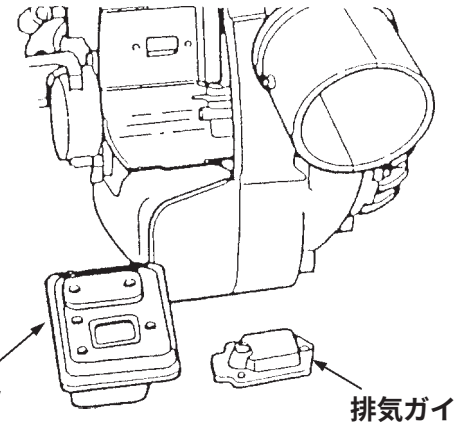
スパークプラグの点検

月に一度は点検してください。

1. **付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。**
2. **電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は0.6～0.7mm＝ハガキ３枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは､新しいプラグと交換してください。（図１参照）**
3. **スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。**
   参考 ： 締付けトルクは１５～１７N･m
   （１５０～１７０ kgf・cm）です。

● **発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。**

図２



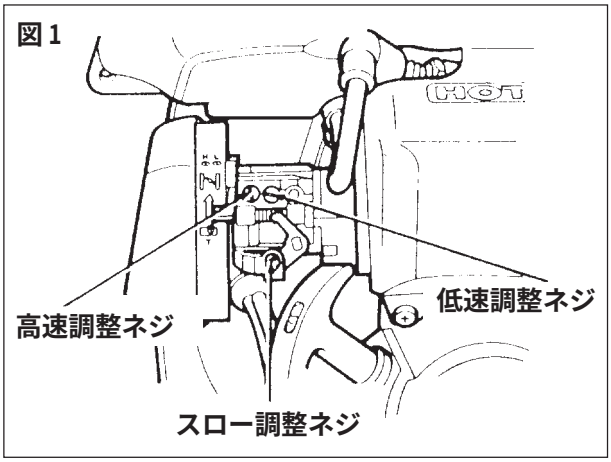
マフラの点検

1. **排気ガイドを取外し、排気出口のカーボンを取除いてください｡エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。**
2. **排気ガイドを取付けてください。**
3. **マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、六角レンチで増し締めをしてください。**

重　要

- 工場出荷時にキャブレタは最高の性能が引き出せるよう設定されていますが､次のような場合にはキャブレタの調整をしてください。
  1．エンジンが始動しない
  2．エンジンが停止する
- スロー調整ネジ、低速・高速調整ネジは締め過ぎないこと｡強く締め過ぎるとキャブレタを破損します。
- 不必要にキャブレタは､調整しないでください。
- 調整をするときは､噴管を付けて行なってください。
- スロー調整ネジは､エンジンが停止しないように再調整してください。
- 高速調整を行なうときは､エンジンを始動させて､エンジンを暖めてください。

図1



キャブレタの調整

キャブレタ調整を行なう前に､エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

スロー調整ネジ

低速時のスロットルの開度を調節します。
アイドリング(低速回転)の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のスロー調整ネジを回して調整してください。

- 燃料と空気の混合割合が適正でない場合は回転不調となります。
- 回転不調の場合は、低速・高速調整ネジを静かに回して調整します。

低速調整

1．低速調整ネジを時計方向に静かに回し、エンジン回転が落ち始めの所を見つけてください。
2．低速調整ネジを反時計方向に静かに回し､エンジン回転が落ち始めの所を見つけてください。
3．スロー調整ネジを時計方向に回し､エンジン回転数を２，５００～３，４００r/minにセットしてください。

高速調整

1．高速調整ネジを反時計方向に１回と1/4､回してください。
2．エンジンを高速で回転させながら､高速調整ネジを時計方向に、回転がスムースになるまで、ゆっくり回してください。
3．もし、エンジンの加速がスムースでないときは、高速調整ネジを反時計方向に1/8～1/16回、回してください。

調整してもエンジン回転不調の場合は､お買い求めの販売店へご相談ください。

故障診断と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

- **燃料タンクに燃料が入っていること。**
- **ストップスイッチが始動の位置にあること。**

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 → ↓	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃 ●清掃 ●販売店へ
↓	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
↓	→ ↓	プラグが燃料で湿っている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
↓	プラグコードの先端で発火する → ↓	プラグコードの先端で発火なし	●ストップスイッチが停止位置 ●電気的故障	●スイッチを始動位置へ ●販売店へ
↓	スパークプラグは発火する → ↓	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン（炭素）の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7mmに調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない	↓		●エンジン内部の故障	●販売店へ
エンジンは始動する ↓	持続しない、または加速不充分 ↓		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●冷却装置の詰まり ●排気口／マフラ出口の詰まり	●清掃／交換 ●交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（６０日間以上）

機械を長期間(60日以上)にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. **燃料タンクを完全にカラにしてください。**
   - **A. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。**
   - **B. プライマリポンプを数回押し、プライマリポンプの燃料を抜きます。**
   - **C. エンジンを始動し、自然に停止するまで運転してください。**
2. **スロットル固定レバーを停止位置（最下位）に下げてください。**
3. **機械の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。**
4. **本書に定められた定期的な点検をしてください。**
5. **機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか、確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。**
   - **A. 必要ならば、掃除をし、修理をしてください。**
   - **B. サビ止めに金属部分には薄く油を塗ってください。**
6. **スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ1/2杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。**
   - **A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。**
   - **B. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡らせてください。**
   - **C. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止めるようにしてください。**
7. **スパークプラグを取付けてください。**
   （スパークプラグキャップは接続しないでください。）
8. **機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。**

仕　　様

項　　目	単 位	PB2100
質量 （吐出パイプ付き、燃料除く）	kg	４．０
容量 燃料タンク	L	０．５
外形寸法（吐出パイプ除く） 長さ × 幅 × 高さ	mm	３３０ × ２１５ × ３４０
エンジン 形式 排気量 キャブレタ 点火方式 スパークプラグ 始動方式	mL	 空冷２サイクル単シリンダ ２１．２ ダイヤフラム式 フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式 ＮＧＫ ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・共立純正２サイクル専用オイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ　　;[５０:１] ・２サイクルエンジンオイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ，ＦＡ　;[２５:１]
送風機 基準回転数 送風機最大風量 送風機最大風速 吐出パイプ	 r/min m^3/min m/s	 ７，３００ ８．７ ６０ 直噴管、扇形噴管

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

両毛共立エコー株式会社
宇都宮市御幸本町 4736-7　〒 321-0983　☎028-661-0431(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

898 512-2346 0
X750 113-720 0